

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	株式会社健康会 グループホームあけぼのⅢ(ユニットB)	評価実施年月日	平成19年10月26日
評価実施構成員氏名	堀田 豊光、本田 章、伊藤 智恵子、山口 秀典、今野 真知子、岡田 真理子、谷 けえ子、千葉 佳代子		
記録者氏名	千葉 佳代子	記録年月日	

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>開設時に、全職員が意見を出し合い、地域性を意識した独自の理念を作成している。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>各職員が社員証の裏に理念を携帯し、ミーティングなどで確認しながら理念に沿った業務ができるよう努めている。また、スタッフルームにも理念を掲示している。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>入居契約のときに併せて理念も家族に説明している。玄関、各ユニット出入り口の目に付きやすいところに掲示している。運営推進会議をとおして、地域の人にも理念を伝え、理解を得ている。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>近隣住民との挨拶は日常的に行っており、通りがかりの談話や家庭菜園の野菜を分けていただくなど、気軽に交流できている。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内会に加入し、回覧板の閲覧や廃品回収を住民と共に行っている。花火大会や盆踊りを見学し、地域住民と交流している。また、隣の保育園に、開設時より交流の働きかけをし、時間を有したが、現在は保育園側から行事参観に招いていただくことができている。</p>		
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>町内会行事や町内清掃に参加している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を行うことで、自らを見つめなおし、基本の確認ができる。外部評価を受ける事で、職員の意識の向上と統一が図られるものにとらえている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	9月21日(金)、第一回運営推進会議を開催。	○	会議の開催を重ねるごとに地域からの意見や要望が出やすくなるよう配慮し、サービスの質の向上に努めていきたいと考えている。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	グループ内を代表し本部で市担当者に意見や内容の確認を行っている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	成年後見人が付いている利用者が1名入居している。各職員が、制度を理解し、後見人との情報交換がスムーズに行えるように努めている。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	開設より現在まで、虐待の事実は確認されていない。指定された研修や、個人の自学研鑽による研修に参加している。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約の際は、全項の口頭説明をしながら、不安や疑問にその都度答え、納得を得たうえで同意書にサインをもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>個別に対話し、その都度不満や要望などを聞き、業務に反映させている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>3ヶ月に1回広報誌を作成し、利用者の暮らしや職員の動きなどを掲載し家族へ届けている。他、ほぼ毎月、担当者から家族へ近況報告の手紙を送付。緊急時や必要に応じて、電話連絡などしている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に意見箱を設置している。面会時に、家族と会話しながら、意見や不満を引き出すようにしている。現在まで、問題となるような苦情等は出ていない。</p>	○	<p>家族の思いが出し易い環境作りに努め、多くの意見を運営や業務に反映させる。</p>
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月、ミーティングで上がった運営に関する意見や疑問を管理者がまとめ、管理者会議で議題に上げている。</p>	○	<p>今後、更にスタッフの意見や提案が運営に反映されるよう、積極的に意見交換や管理者会議への議題の提議を行っていく。</p>
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>規定の人員は満たしており、労働基準に沿った勤務になっている。パート職員の勤務時間をスタッフで検討し、了解を得て時間の調整をしている。</p>	○	<p>スタッフ一人一人が、心身ともに無理なく業務に当たれるよう、欠員の補充と、長く勤められる環境の改善を目指していく。</p>
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>現在まで、退職する職員は、退職当日まで利用者への別れの挨拶を控える、またはあえて告げない等の配慮がされている。</p>	○	<p>ユニットのスタッフは、全員1年以上現状で経過しているため、今後もスタッフ間の人間関係や介護の質の向上に努め、利用者の親しみ深いより良い環境作りに専念する。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>教育委員会を設け、積極的な外部研修への参加を心がけている。日々の業務の中で、スタッフが互いに声をかけ合い、意識や知識の向上に努めている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>系列GH合同の委員会があり、各委員が意見や情報の交換を行っている。地域包括支援センターの働きかけにより、計画作成担当者の勉強会に参加している。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>業務中に休憩時間が殆ど取れないため、スタッフが互いに協力し合い、休憩時間を確保できるように努めている。勤務の希望は、できる限り対応し、有給休暇の消化も積極的に行われている。事業所の親睦会を発足している。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>スタッフ間の団結があり、自発的な研修参加や資格取得など、各自の向上心があり、互いに刺激され励みになっている。</p>	○	スタッフ個々の能力に合わせた納得できる対応や処遇がなされるよう、運営者との面接の機会を設ける。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>相談を受け、事前に情報収集した後、入居希望者に施設を見学しに来てもらいスタッフと交流し、安心感を提供する。その後、アセスメントしながら自宅に伺うなどし、徐々に話し易い関係を作るよう配慮している。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>相談を受けた時点から、介護についての不安、悩み、疑問に対してその都度説明をし、理解・納得を得ながらアセスメントを進め、気持ちを引き出せるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	地域周辺を含むGHの環境が、入居希望者にとって適切な物であるかの判断をしながら適切な支援の提供を行っている。過去に、アセスメント中に家族と話し合い、在宅が適していると判断して入居を中止した例あり。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に、可能な限り施設見学に来てもらうようにし、環境に馴染んでもらうと共に利用者の状況の把握に努め、通いや面会回数、外泊など家族と話し合い調整している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	各スタッフが、介護のプロであると同時に「お馴染みさん」である事の意識がなされており、ユニットの介護度が高いが、意思伝達の難しい利用者とも苦しみや楽しみを共にし、感情豊かに過ごしている。利用者は人生の先輩、スタッフは頼られる存在として支え合っている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	開設3年目、家族との信頼関係も深まっている。認知症の理解や対応の仕方など説明し、家族の協力を得ながら利用者を支えることができている。	○	家族の面会が極端に少ない例があり、定期的の手紙を送る事で関心を持ってもらえるよう努めている。体調管理の他、事務的な報告なども併せて近況報告している。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	特変時やケアプランの更新時などの機会に、家族の利用者に対する思いやそれに伴う要望を改めて伺い、共に検討するよう努めている。面会時など、入居時からの変化した事については総て伝え、理解を得ている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	行き付けのエステや美容室、喫茶店、入居前の住まいの付近を訪れ、本人が大切にしている地域の関係が途切れないよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	各利用者が、互いの体調を気遣ったり、介護度の高い利用者の居室の訪問をして話し相手になっている。コミュニケーションが取りづらい利用者も、スタッフが会話を仲介する事で会話ができている。特定利用者が孤立するような状態は、見られていない。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	転居先への細かい情報提供、転居先からの確認と状態のフォローを行っている。死亡での契約終了後も、諸手続きの援助を行ったり、道などで家族に会った時には、必ず挨拶し、家族の近況を伺うなどの近所付き合いをするよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思表示の難しい利用者は、本人の様子や家族からの情報や思いを確認し、把握に努めている。担当者を付けてアセスメントを行い、今後についてミーティングで協議している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時のアセスメント、生活歴をベースに、入居後からは、本人の様子や会話、新たな知人の情報などを参考に把握に努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の記録を通して、各利用者の生活習慣と、健康状態の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎月のミーティングで、各利用者の課題と適切なケアについて話し合い、ニーズに沿ったケアプランを立てる土台作りとしている。	○	センター方式の理解と活用を目標に、スタッフへの周知を行っていく。ツールの使用の有無をに関わらず、ツールによる考え方を重点的に浸透させていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	緊急時、場合に応じて担当者、家族と相談の後、暫定介護計画を期限を決めて作成、実行、評価して、新たなプランに盛り込むかを検討している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	ケアプランの短期目標に沿った観察を記録し、各スタッフの気づきが具体的内容の評価に反映されている。短期目標にない項目や新たな気づきがあれば、担当者が抜粋し、計画作成者と新たな課題分析を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	気分転換の散歩、ドライブは希望があれば昼夜を通して随時行われている。家族の宿泊の援助、食事の提供なども希望があれば行われている。	○	来年度以降、ショートステイやデイサービスの機能も果す事ができるよう、研修参加や受け入れ時の体制の検討を行っていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	屋外行事の際、学生ボランティアに協力をお願いしている。他、行き付けの美容室などに行く時は、店員に協力を頂き、スタッフは送迎のみとし、一人の雰囲気も味わってもらっている。	○	入居間もない利用者より、趣味の囲碁や将棋がしたいという希望あり。町内会などのクラブを探している最中。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域包括支援センターでの事例検討会で、今後のグループホームのあり方や方向性を考えた時、他のサービスの利用や、授産施設への働きかけ等が上げられたが、現状はニーズとして上がっておらず、実際の利用の支援までは至っていない。	○	実用的な地域資源について、現状を把握し、今後予想されるニーズに備えていく。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターで、地域のGH計画作成担当による研究会を発足しており、定期的に事例や問題点などの議題を提示しあい、ケアプランや書式などの検討、アドバイスを受けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居前から関わっている医療機関と十分な情報交換をし、緊急連絡体制を整えて定期的に受診している。特定の主治医が居ない場合は、提携クリニックが主治医となり定期訪問診療し、馴染みの環境の中で健康管理がなされている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	提携クリニックは、市内の複数のグループホームで定期訪問受診を行っている。認知症専門医の診断が必要な場合は、連携医療機関の精神科に受診するよう体勢が整えられている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所のAユニットの管理者が准看護師である。また、提携クリニックの看護師が、全利用者対象に週1回状態観察をし、馴染みの環境の中で健康管理がなされている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院中は、面会や病院の相談員を通して状態の把握をし、認知症状の進行に配慮した早期退院の相談をしている。状況に応じて、退院後の暫定プランを整えて退院の受け入れを行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居の契約時、終末期について家族や本人の意向を確認している。緊急、必要性のある場合は、主治医と家族、本人、管理者の面談を持って終末ケアの対応や入院・退居等の方針を決定している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	主治医と事業所で相談し、指示により訪問看護も取り入れ、全体の連絡体制を整えてチームケアを行っている。今後の変化に備え、検討・準備の体制も整えられている。ユニットでは、開設以来、2例の週末ケアを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>受け入れ、転居の前に、関係者から細かい情報交換をすると共に、話し合いを設け、必要な医療体制などを整えてから転居に臨んでいる。対象者の生活状況の把握に努め、家族へは極力馴染みの家具や愛着のある道具などを持ち込まれるようお願いしている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>各スタッフが、注意を払い、またミーティングを通して対応の方針を決めてプライバシーの確保に努めている。ユニット内では、プライバシーが損なわれるような対応、又は記録の扱いをするような人材は確認されておらず、報告も上がっていない。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>意思表示の難しい利用者にも、個別の対応で選択肢を投げかけ、極力希望を汲み取れるよう、各スタッフが努力している。事業所の基本理念にも、自立に向けての取り組みが明記されている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者本位のケアを目指し、日々の声かけを多くして意思の疎通を図っている。毎日のカンファレンスで、個々の状態把握に努め、日々変動するニーズに向けて話し合われている。</p>	○	<p>人員の不足がある場合、十分な対応ができずに利用者にも不満が残る事がある。人員の確保と速やかな補充が実態として求められる。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>入居前に通っていた美容室やエステを継続して利用している。希望の化粧品や好みの服装などは、極力本人と買い物に行き選んでもらっている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>全スタッフがメニュー作りに取り組み、季節の献立や利用者の希望を取り入れるように工夫している。食事の準備や後片付けも、利用者と共に作業するよう心がけている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲酒は、全員主治医に了解、指示を受け希望時や行事の際に適量の提供をしている。他の嗜好品についても、本人と買い物に行くなどして日常的に楽しめるよう常備している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	各ケース担当で当該利用者の排泄パターンを把握し、適切なトイレ誘導やおむつ交換のタイミングを周知している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	自発的に入浴を希望する利用者が少なく、また曜日の認識を得られるよう、あえて入浴日を定めている。全介助の利用者が多いため、入浴は、職員の数が多い時間帯に限られる方が大半だが、見守りでの入浴が可能な利用者には、規定の入浴日以外にも希望時の入浴を勧めている。	○	清潔保持に努めながら、一方的な介助にならないよう十分配慮していく。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	各利用者個別の過ごし方を理解し、状態に合わせた好みの場所への誘導を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の持ち得る能力に合わせ、無理のない役割を行っている。散歩、将棋、ドライブ、飲酒など、個別の楽しみに時間を決めずに対応している。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には事務所で管理しているが、希望者には、家族と話し合い、本人管理の同意を得て現金を所持してもらっている。買い物の際は、本人が支払い動作を行えるよう支援している。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	それぞれの希望により、散歩、ドライブ、中庭、買い物などに出かけている。意思表示の困難な利用者については、生活歴や趣味から希望を汲み取り、外出先を選択している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみたく普段はいけな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支援 している。	本人の希望を取り入れ、医療機関や家族と相談しながら外出支援を行っている。銭 湯へ行ったり、遠方の親戚宅への外泊など実践されている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援を している。	電話をかけたい希望がある場合、プライバシーを考慮し、事務室の電話を使用して もらっている。手紙の代筆、投函は希望時に即対応している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人 たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している。	家族、友人等の面会時は、接遇に気配りして快適に過ごして貰えるよう努めてい る。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる。	管理者が身体拘束に関する研修に参加してしる。体位交換や移乗の自立支援の 為、ベッドに布団留めの柵を使用しているが、家族に理由を説明し、同意を得て行っ ている。緊急時のベッド柵使用は、ケアプランに特定の状態を明記し、家族の同意 を得た上で行い、プラン見直しごとに評価しながら実施の検討をしている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関と2階出入り口にブザーを付けて、利用者の出入りを把握している。外出を確 認した場合は、さりげなく同行している。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、 昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、 安全に配慮している。	利用者の居る場所から、職員の目が離れないよう、スタッフ同士で声を掛け合っ ている。夜間は、夜勤者が2時間置きに巡回し、プライバシーに配慮しながら安全確 認を行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすの ではなく、一人ひとりの状態に応じて、 危険を防ぐ取り組みをしている。	居室に置く物や持ち物などは、利用者のIADLや状態に応じて個別に対応してい る。ユニット内の利用者全体のバランスにより、注意すべき物品の検討を行ない、配 置などを検討している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	安全委員会を作り、インシデントレポートを活用して事故防止に努めている。日々、カンファレンスで情報交換をしながら、利用者一人一人の状態を把握し、個別の事故防止策が検討されている。		
70 ○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	各入居者のなりうるおそれのある急変事例、対応は計画作成に記載されている。事故発生時の連絡マニュアルを作成している。初期対応の訓練は定期的に行っていない	○	応急手当講習会に職員を参加させて、職員が対応できるようにしていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災時のマニュアルがある。消火器の使い方などの訓練は十分に実施出来ていない	○	運営推進会議で町内会長に災害時近隣者の協力が得られるようお願いしたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	普段から、家族とのコミュニケーションを取っており、細かな事でも情報提供をしている。起こり得るリスクについては、十分に説明したうえで、生活の質の確保に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日、決まった時間にバイタルサインの測定を行ない、異常の早期発見に努めている。また、普段と違う様子や言動が見られる場合も、記録に明記し、継続した観察ができるよう努めている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬内容は、全スタッフが把握しており、服用の経過をみて状態の観察をすることができている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	十分な水分の確保や、繊維質の多い食品の活用、また運動、体位変換を心がけている。下剤調節は、個別の状態と経過を把握し、毎日カンファレンスで検討しながら服用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアを行うよう声かけや介助を行っている。スタッフ一人一人が、口腔ケアの重要性を十分に理解している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量の確認がしやすいよう、記録にチェック表を設けている。水分摂取時間の工夫や、個別に調理法や形態を変えるなど、能力や好みに応じて提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	系列GH合同の感染対策委員会で、マニュアルが作成されており、感染予防が実践されている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日食材の買い物へ行き、新鮮で安全な食材の使用を心がけている。また、感染対策委員会による調理マニュアルに沿って、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	夏場は、玄関先に団欒スペースを設けて利用者、職員、近隣の住人が気軽に談話できるようになっている。毎春、プランターに苗植えをして玄関に飾り、憩いの場を演出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースは、家庭的な雰囲気を保ち快適に過ごせるような環境を、その日の利用者の状態に合わせて提供することが実践されている。行事ごとの飾り付けを行うと共に、スタッフが自発的に季節の草花を自宅などから持参してくれて、季節感が演出されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングに食卓テーブルと団欒のソファを用意し、好みの場所で思い思いに過ごせるようにしている。喫煙場を設け、一人でゆったりと過ごす時間が持てるようにしている。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際は、なるべく利用者本人の馴染みの家具や食器などを持参して貰うよう家族に働きかけている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各居室に温度、湿度計を置き、その日の状況によって換気や室温、湿度管理などこまめに行っている。臭いに関しては、バルンカテールやオムツ使用者が多く、時々交換後の換気や消臭スプレーでは補えない場合がある。常に排泄臭がしている事は無い。	○	ユニットの臭いに関しては、使用済みオムツをその都度袋に包み、換気、消臭スプレー、消臭剤などで極力抑えるように努力されているが、今後もより良い改善策を取り入れていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	廊下、トイレなどに手摺が付けられている。自室は、生活する利用者の習慣や身体機能に合った環境を整えるよう努力している。その際、寝返りや立ち上がりの自立支援のため、ベッドの布団止めの柵を使用する事があるが、家族に意図を説明し、同意を得ながら行っている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	リビングに日めくりカレンダーを置き、居室やトイレなどは利用者に解かり易い表示を付けており、現在混乱する利用者は居ない。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の外回りは、利用者の運動や散歩の場として定着している。中庭に菜園や花壇があり、自由に出入りする事ができるが、通路に枕木が敷かれており、車椅子での乗り入れは介助を要する。	○	

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 立地条件が良く、近隣施設や地域住人の理解も得られた事で、利用者の社会参加や地域交流がしやすく、生活の幅が広がっている。利用者の日々の状態に合わせた楽しみや、安心を提供できるう、職員一人一人が業務に工夫を凝らして利用者にも有効な時間を作り、日中から夜間帯にかけて、利用者が希望する外出や気分転換などの支援をしている。母体が医療機関であり、医療連携がスムーズに行われており、介護度や医療依存度が高い利用者にも、家庭的で主体的な生活環境を提供する事ができている。環境設定の大切な要因として、スタッフの人間関係が良好に保たれるように努めており、定着したメンバーで、利用者にも安心感を提供することができる。また、定着したメンバーにより、各利用者の理解が深まっており、個別のケアに活かされている。